

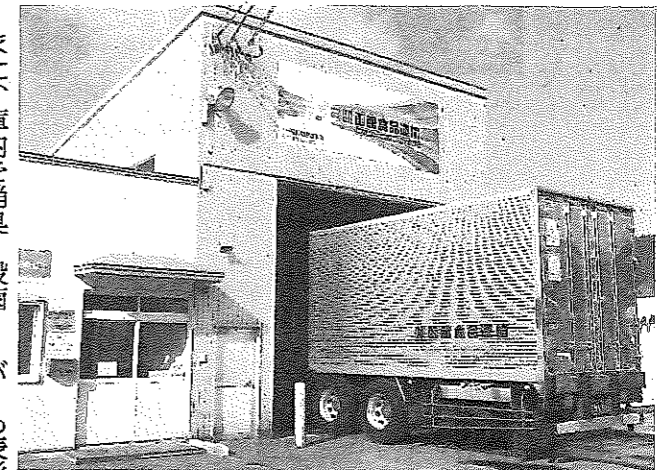
函館食品運輸

函館食品運輸(高田潤社長、北海道七飯町)は、デジタルタコグラフなどの車載機器を導入するとともに、ドライバーを定期的に表彰し、安全・環境対策や荷物の品質保持、コスト削減に役立てている。

本社営業所を拠点に、冷凍ホタテなどの水産加工品や青果物、乳製品といった道産食品を主に運ぶ。車両は大型冷凍車を中心に22台を保有。フェリー航路を利用した本州便をメインとする。

デジタルタコは10年ほど前、事故防止と労務管理の両立のため導入。そのほか、異常運転アラート機能付きの車両位置情報管理システムや、後方確認用モニターなど、安全管理のための車載機器を積極的に採り入れてきた。

運転者を定期的に表彰



水産加工品や青果物、乳製品といった道産食品を主に運ぶ

人ひとりの安全意識の醸成も余念なく行う。年末には、デジタルタコの点数や平均燃費に応じて表彰。インタンクからの給油を多く行ったドライバーも表彰することで、コスト削減につながっている。

また、庫内を消臭・殺菌するオゾン発生装置を標準装備するなど、品質管理にもハード面の取り組みを重視。窒素酸化物(NOx)除去システムや、蓄冷式クーラーを活用して環境対策にも早くから注力し、2020年にグリーン経営認証取得10周年を迎えた。

安全意識醸成へ余念なく

北関東物流

北関東物流(神成光輝社長、栃木県鹿沼市)は、2020年度に大衡営業所(宮城県大衡村)と鹿沼第2営業所(鹿沼市)で新規にGマークを取得した。車両のある全営業所でGマ

ク取得を達成。コンサルティング会社との連携が奏功した。

改善点見つけやすく



大衡営業所は開設当初、車両が無く倉庫のみの営業だった。20年に、車両配置から3年が経過してGマーク申請条件を満たしたため申し込んだところ、一発で取得できた。神成社長は「大衡営業所はドライバーが6、7人と少数なのでまとめやすかったのではないかと分析。5月まで同営業所でドライバー指導などを担い、6月から鹿沼第2営業所で副所長を務める松丸昭雄氏は「業務の合間を縫って安全教育を行った。現場で仕

19年10月に現在の場所に落ち着き、取り組みを本格化(鹿沼第2営業所)

Gマーク取得事業者

事ぶりを確認してアドバイスすることもあった」と振り返る。

一方、鹿沼第2営業所は移転が重なるなど、なかなかGマーク取得への準備が進んでいなかった。しかし、19年10月に現在の場所に落ち着き、取り組みを本格化。松丸氏は「帳票類の保管が十分ではなかったで足りないものを取り寄せたりした」と話す。

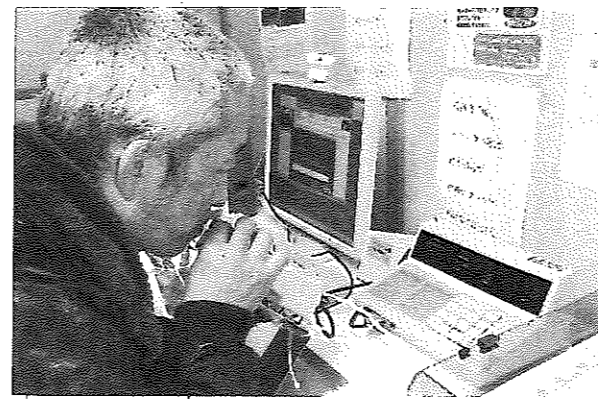
更に、コンサルティング会社に依頼し月に一度、ドライバーとコンサルタントが面談する機会を創出。細井恒治総務部長は「あえて第三者を入れることでドライバーの本音を引き出しやすくなった」とメリットを語る。管理職に言いづらいこともコンサルタント経由で聞けるため、改善点を見つけやすくなったという。

神成氏は「Gマーク取得率は年々上昇しており、取得して当たり前の時代になってきている。鹿沼第2営業所で行っているコンサルティングを他の営業所にも展開し、更に安全を強化していきたい」と話している。(伊代野輝)

東日運送

東日運送(庄子哲朗社長、仙台市若林区)は1961年設立と比較的長い歴史を持つが、2020年12月に初めてGマークを取得した。「運行管理部長にそろそろ取った方が良いんじゃないかと提案されたから」と庄子社長は特に気に掛けない様子で語るが、同社の安全やセキュリティ

運転席と貨物室にDR



△受発信機を導入して関係者による貨物ドアの開閉を厳格に管理。ドアは異常があれば警備会社へ通報される電子錠付きた。

また、運転者別に連続運転時間超過、拘束時間超過などの安全転換反を数値化し、運転者の顔を撮影するアルコルチェッカーを導入

状況把握&社内教育むけ

への取り組みは早くから極的だった。

運転席と貨物室にドラブレコーダー(DR)を置いて常時状況を把握できるようにし、荷崩れの映像を社内教育に使用。業所には運転者の「替玉」防止の顔画像連動型ルコルチェッカーも導入している。更に、半導体などの高価な精密機器を取扱うため、早くから車両GPS(全地球測位システム)

廣瀬運輸

廣瀬運輸(広瀬三郎社長、埼玉県寄居町)は、日頃から安全運行への高い意識を持ち続け、事故防止につながっている。車両にデジタルタコグラフを取り付け、運転・休憩時間を可視化。また、ドライバー同士で積極的にコミュニケーションを取ることで、普段から運行ルートの特徴や交通状況などの情報を共有し、事故の未然防止に生かしている。こうした取り組みを日常的に続けることで、任意保険の割引率が75%に達するほど事故が無い。

安全方針の更新を重ね

同社ではドライバーの運転技術を高めるトレーニングを実施し、日頃から安全運行を意識づけさせている。また、事故防止活動に取り組み中で安全方針の更新を重ねながら、常に対策を改善してきた。

トレーラとトラック台合わせ18台と大型ウィング車を

任意保険割引率75%に

3台、4人車1台を保有10人のドライバーが鉄筋材と寄居町の特産品の生を配送している。重量物鉄筋鋼材は荷崩れしないように積みつける必要があり、積み替えの際にはクレーン作業や高所作業がある。一方、生花は手積み隙間無く積載するなど荷崩れしないよう丁寧に扱わなければならない。取扱品目によって安全面で注意すべきポ

